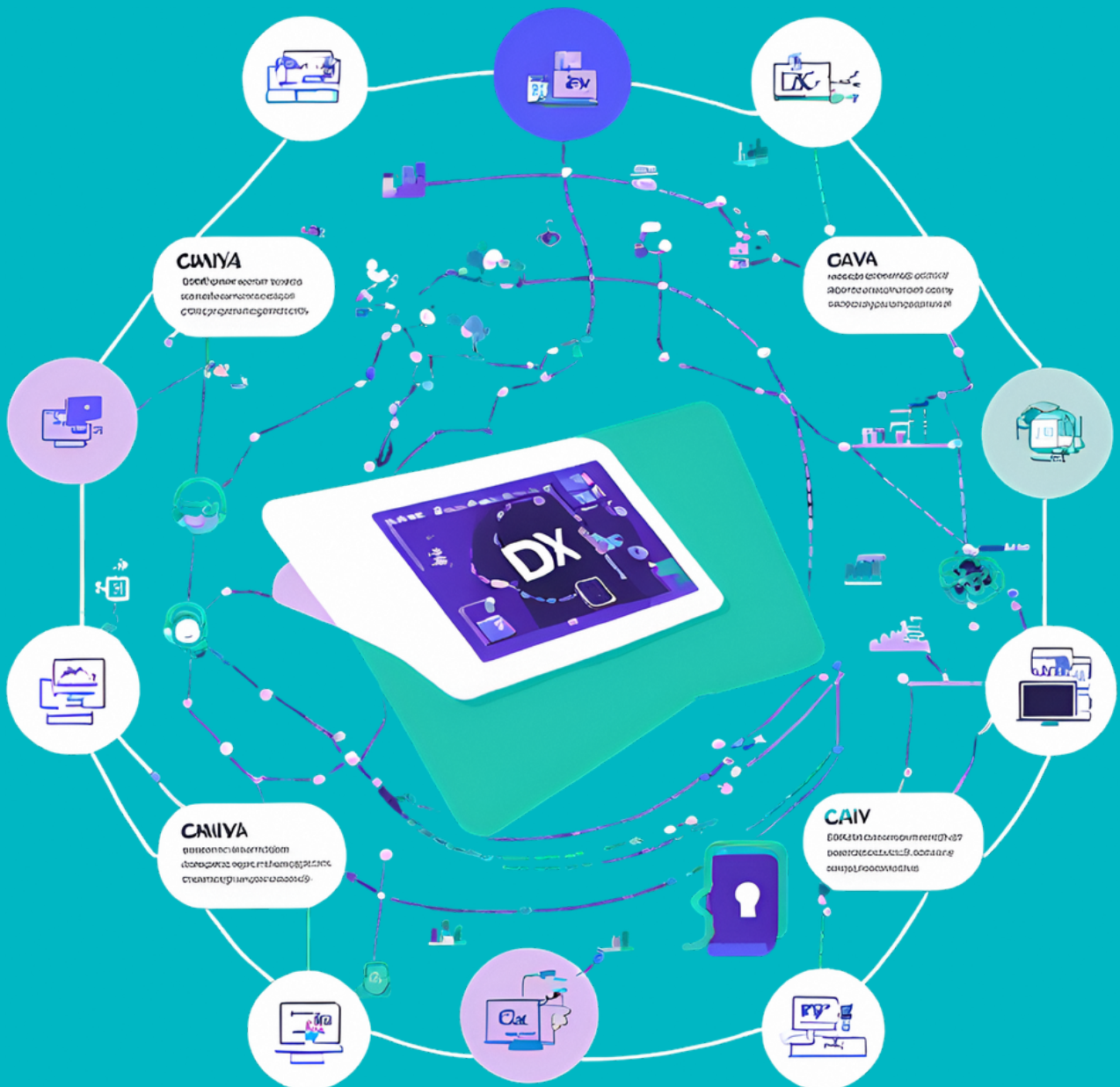


令和7年度

袋井市中小企業等 デジタル化推進業務

D X 事例集



CONTENTS

03

CHAPTER 01 事業詳細

CHAPTER 02 支援事例紹介

- 01 有限会社江塚自動商会 「ホワイトボード運用からの脱却による『予定管理のリアルタイム化』」
- 02 株式会社西原商工 「勤怠管理システムの定着とバックオフィス効率化」
- 03 株式会社丹羽呉服店 「創業1953年の老舗呉服店『Instagram×デジタル勤怠』攻守のDX戦略」
- 04 大丸工業株式会社 「『ざっくり在庫』の可視化から始める製造現場の生産性改革」
- 05 もこあもこ合同会社 「非効率な業務プロセスを見直し、サービス提供に集中できる運営体制づくり」
- 06 株式会社中遠外構 「FAX業務の自動化と財務可視化による『週休2日制』への挑戦」
- 07 株式会社早川製作所 「日報DXと在庫管理統合による、現場生産性の回復と業務基盤づくり」

過去の事例はこちらから

令和6年度



https://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/material/files/group/46/2503_zirei.pdf

令和5年度



https://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/soshiki/14/3/chushokigyo/d_zirei/index.html

事業詳細

袋井市においては、労働人口減少や雇用のミスマッチなど、少子高齢化による社会構造の急速な変化とともに「人手不足」が深刻化しており、生産性向上を図るためには、業務のデジタル化が急務となっています。

令和4年度に実施した「袋井市中小企業デジタル化に向けた実態調査」の結果では、業務のデジタル化に関して、何から手を付けていいかイメージが湧かない、デジタル化をするメリットが分からないといった、導入事例の紹介や相談アドバイスを求める回答が一定数あることが分かり、専門家の伴走による細やかな支援の必要性が示唆されました。

これらのニーズに応え、業務のデジタル化推進とそれに伴う市内中小企業等の経営力向上によって、環境の変化に対応できる「稼ぐチカラ」を強化することを目的とし、伴走型の中小企業等デジタル化推進支援事業を実施しました。

STEP 01

DXの理解

- ◆本事業の説明と理解
- ◆DX推進への理解と浸透
 - ・DX推進のメリット、実行が遅れた(未導入)場合のリスク説明
 - ・DXによる継続経営のPDCA、DX推進のためのSTEPの説明と理解
- ◆今後の流れ、支援内容の説明



STEP 02

現状の可視化（自社分析）

- ◆企業の抱える課題のヒアリング、抽出と整理
- ◆経営課題の整理・分析から課題全体の可視化（DX専門家作業）
 - ・業務効率改善を図る際に扱う情報、業務フロー・受渡方法などをヒアリング、一覧表作成（両者）
 - ・現状のデジタル環境の確認（ツール、機器、運用方法等）
- ◆DX専門家による課題の仕分け
 - 課題に対する解決優先順位の仮案を提案（被支援企業検討事項）
- ◆DX診断ツールにてDX進捗度チェックの実施（支援進捗、被支援企業の都合に合わせて診断実施）



STEP 03

あるべき姿／ギャップ抽出

- ◆STEP 2で提案した課題解決の優先順位の検討事項確認
- ◆改善、解決の有無に対するギャップの説明（成功イメージを描き理解する）



STEP 04

対策・対応／計画策定

- ◆課題解決のための作業タスクの抽出、実行計画案の検討
- ◆経営者及び担当責任者の確認の上、本事業におけるテーマを設定
- ◆実行計画を策定し活動する意思確認
- ◆DX専門家による実行計画（ロードマップ）、作業タスク表の作成（STEP1～3の情報をもとに作成）



STEP 05

DX計画合意

- ◆DX専門家が作成した実行計画（ロードマップ）に対する合意
- ◆実行体制の整備
- ◆導入済デジタルツールが存在する場合には、納入を含めた周辺情報の準備（支援企業）



STEP 06

ITツールの導入活用促進

- ◆課題解決のためのデジタルツールの探索、選定支援
- ◆導入済ツールがある場合、当該ツールを活用している業務フローの整理
 - ・一定の効果を期待して導入しているにも関わらず効果が出ていない場合、業務フローとツール機能の整合性が取れていないケースがあるため、フローや運用後の効果チェックポイントを再検討する
- ◆デジタルツール提供サプライヤーとの連携支援
 - ・中小企業経営者の場合、サプライヤーに対して的確に要望・要件を定義できない事があるため、サポートを行う



STEP 07

ITツールの効果測定

- ◆ITツール導入前と導入後について効果測定を実施
- ◆進捗状況を整理、分析し新たな課題への取り組み項目の割り出し



STEP 08

DX計画の再考

- ◆新たに発生した進捗上の課題を整理、分析
- ◆STEP 1に戻り目標達成に向けた新たなロードマップ作成をアドバイス



case 01

有限会社江塚自動車商会

- 所在地 〒437-0125
袋井市上山梨1594-1
- 事業内容 自動車整備及び販売
- 従業員数 4名



参加の背景

入社直後に業務プロセスを俯瞰した際、整備や車検の予約や代車の車両管理がホワイトボードで行われており、外出先からの確認が困難であった。また、請求書作成時の手修正や顧客情報の分散管理など、非効率な業務プロセスが散見されたことから、業務の見直しと効率化を目的に本事業へ参加した。

テーマ

ホワイトボード運用からの脱却による「予定管理のリアルタイム化」

① 予定管理のデジタル化

- ・ホワイトボードによる予定管理をGoogleカレンダーへ移行し、リアルタイムでの情報共有体制を構築

② 請求業務の最適化

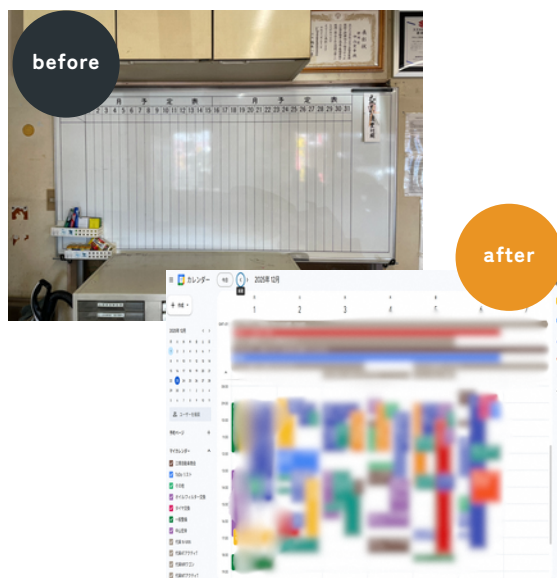
- ・請求書の電子化およびマスター設定の整理を実施し、不要項目の削減と入力効率を改善

③ 創出時間の活用

- ・業務効率化により創出された時間を活用し、gooブログを活用した情報発信・集客活動を開始

カレンダー共有
9.1h/月
削減

見積書請求書作成
14.7h/月
削減



今後の展望

- ・ITツールの社内定着の徹底
- ・勤怠管理業務の簡略化検討
- ・顧客管理システム刷新
(LINE×顧客管理システム連携により、顧客属性にあった配信を行い、顧客満足度の向上)

伴走支援を通しての感想

専門家からの迅速かつ具体的な提案により、実行へのハードルが下がった。仕組みが整備されたことで従業員の意識も変化し、改善に向けた主体性が醸成された。

case 02

株式会社西原商工 (袋井工場)

所在地 〒437-0056
袋井市小山1707-1

事業内容 製造業

従業員数 19名



参加の背景

袋井市公式LINEで本事業を知った。横浜・袋井の複数拠点でオンライン環境や販売管理システムを導入していたが、運用が十分に定着せず、拠点間の情報共有の質向上と既存ツールの有効活用に向けた改善提案を求めて参加した。

テーマ

勤怠管理システムの定着とバックオフィス効率化

① 拠点間情報共有の基盤整備

- ・ Microsoft 365の運用ルールを整備し、拠点間で情報が滞留しない共有・管理の前提を整理

② 既存システム（販売管理）の再整備

- ・ 形骸化していた販売管理システムの再整備と従業員の再教育により、在庫把握の精度向上と経営分析に活用できる状態へ

③ 勤怠管理のデジタル化

- ・ 勤怠管理システムの導入により、手作業・属人運用からの移行を推進

勤怠管理
26.2h/月
削減



before



after

今後の展望

今後は、3拠点の連携をDXを用いて方向性の統一を図り、導入ツールの運用定着とデータベースの活用方法を再構築。

これにより、スピーディーな経営変革の実現を目指す。

伴走支援を通しての感想

伴走支援を通じて、DX推進に必要な段取り・優先順位の考え方を整理できた。社内で共通言語が形成され、役員と現場間の議論も具体化した。自社だけでは停滞していた課題に対して行政の支援事業という機会を得て、最初の一步を踏み出すことができた。この一步こそが、私たちにとって最も価値のある成果です。

case 03

株式会社丹羽屋呉服店

所在地 〒437-0027

袋井市高尾町6-18

事業内容 着物・和小物の販売、レンタル

従業員数 7名



参加の背景

新規顧客獲得がSNSや紹介に限定され、従来の宣伝手法は社会環境の変化により効果が低下していた。また、顧客管理および勤怠管理は紙ベースで属人しており、運用に限界が生じていたことから、業務全体の見直しと効率化の必要性を認識していた。そのため、外部専門家の助言を得ることを目的として本事業へ参加した。

テーマ

創業1953年の老舗呉服店「Instagram×デジタル勤怠」攻守のDX戦略

① SNS活用の具体化

- Instagram運用に関し、写真の撮り方等を含む具体的な実務助言を実施し、情報発信の質を改善

② アナログ×デジタルの融合設計

- 近隣の美容院・写真館へ紹介連携を行い来店導線を構築。Instagramで展示会情報を発信し、新規顧客接点の創出を実施

③ 勤怠管理のインターネットでの共有

- 紙出勤簿による管理から、デジタル型勤怠管理への移行方針を整理（紙運用脱却に向けた土台づくり）

SNSを
活用することで
新たなリーチ獲得

フォームを
活用することで
データ活用が可能に

今後の展望

今後は、紙台帳に蓄積された顧客情報のデータ化を段階的に進め、優良顧客から優先的に情報整備を行うことで、顧客関係の可視化と提案精度の向上を図る。



展示会アンケート

本日はご参加いただき誠にありがとうございました。
より良い会にしていくため、皆様のご感想をお聞かせください。

* 必須の質問です

どのようなきっかけで本展示会を知りましたか？

SNSを見て

...



伴走支援を通しての感想

外部専門家からの具体的な助言により、実行の解像度が上がった。第三者の視点が入ることで社内の受け止めが変わり、改善に向けた意識醸成につながった。

case 04

大丸工業株式会社

所在地 〒437-1113

袋井市東同笠93

事業内容 製造業（各種スプリング製造）

従業員数 19名



参加の背景

材料発注及び在庫管理を紙媒体で運用しており、発注は特定の担当者に依存、在庫は各担当者が個別管理する体制であった。在庫状況は現場備え付けの帳簿で管理しており、担当者不在時には即時確認が困難な状況であった。管理の不透明さが業務効率および原価管理に影響を及ぼす可能性があったことから、業務の可視化を通じた業務効率化を目的に本事業へ参加した。

テーマ

「ざっくり在庫」の可視化から始める製造現場の生産性改革

①発注業務を紙からデジタルへ

- ・ Microsoft Formsを導入し、材料発注情報をデジタル入力化。属人化解消のため運用ルールと担当者教育を整備

②管理情報の可視化

- ・ Excelと連動させることで、発注履歴・状況を即時確認できる仕組みを整備

③現場負荷への配慮

- ・ 製造現場でも直接入力できる仕組みとし、紙帳票のために事務所へ戻る移動負担を削減。紙管理からの円滑なデジタル移行を実現



材料発注業務
2.8h/月
削減

今後の展望

- ・ 在庫管理システムの構築完了
- ・ 運用体制の確立
- ・ 創出時間の全社改善活動への活用

今後は、滞留している在庫管理のデジタル化を完遂し、創出された時間を全社的な業務改善およびDX推進に再投資し、生産性向上の高度化を図る。

伴走支援を通しての感想

仕組みの整備により業務の見える化が進み、現場内の情報共有が円滑化した。あわせて、DX推進には明確なビジョンと経営層のリーダーシップが不可欠であるとの認識を得た。

case 05

もこあもこ合同会社

所在地 〒437-0028
袋井市神長9-2

事業内容 福祉（障がい児通所支援）

従業員数 16名



参加の背景

日々のサービス提供に追われる中で、運営事務の負担が増大しており、改善の必要性は認識していたものの、ツール選定と効果検証に時間を割けない状況であった。専門家による課題整理と比較検討支援を通じ、短期間で実効性のある改善に着手するため本事業へ参加した。

テーマ

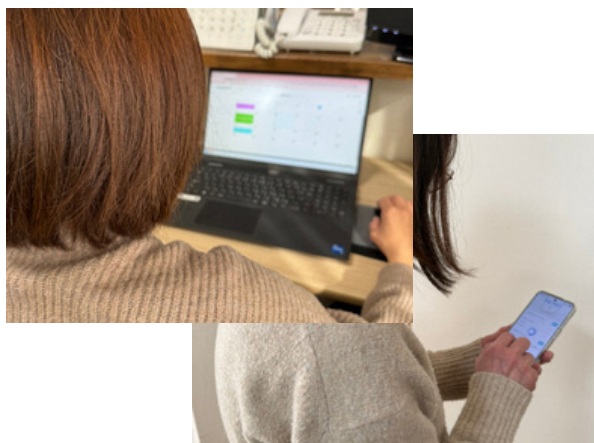
非効率な業務プロセスを見直し、サービス提供に集中できる運営体制づくり

①課題の可視化と優先順位付け

- ・従業員と密な対話により、事業者が認識していた以上の負担箇所を把握し、改善優先度を整理

②業務の省力化（予約・勤怠・記録作成）

- ・予約管理、勤怠管理、AI音声入力＋文字起こしによる記録作成を導入し、確認・連絡にかかる工数を削減。削減した時間で属人化していた障がい児の支援ノウハウの共有も併せて推進



予約管理
2.6h/月
削減

面談記録
62.5h/月
削減

勤怠管理
5h/月
削減

今後の展望

今後は、導入ツールの全職員への定着を図るとともに、業務移管とマニュアル整備を通じて属人化を排除し、継続的に改善できる自走体制の確立を目指す。

伴走支援を通しての感想

伴走支援を受けたことで、自分ひとりでは難しいと感じていた事項も、課題の整理と優先順位付けができ、実行に移せるようになった。改善効果は「1人分の雇用に匹敵する感覚」と言えるほど。また、期限のある面談が定期的に設定されていたことで、短期間で実践的な効果を得られた。

case 06

株式会社中遠外構

所在地 〒437-0027
袋井市国本915-6

事業内容 建設業/エクステリア、外構、
住宅リフォーム

従業員数 7名



参加の 背景

専門的視点からの業務改善提案および補助金活用による設備導入が可能である点を評価し、参加を決定。あわせてDXセミナー参加を通じ、業務効率化への関心を高めていた。

テーマ

FAX業務の自動化と財務可視化による「週休2日制」への挑戦

①FAX精査の自動化

- ・ 全部門で発生していたFAX確認作業のうち、8割が迷惑FAXであり、仕分けに時間を要していたため、負担低減に向けた改善に着手

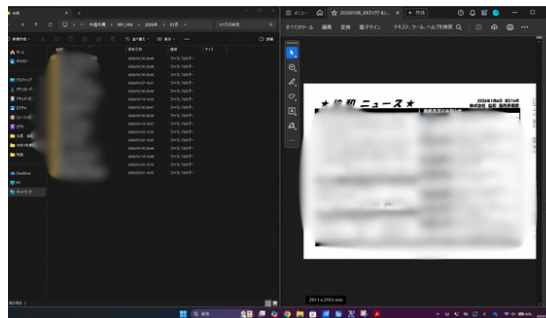
②OCR+サーバー導入による運用構築

- ・ OCR及びサーバーを導入し、受信FAXの整理・閲覧に係る運用を再設計。確認・仕分けの工数を削減し、情報管理の効率化を推進

FAX精査
21.5h/月
削減

今後の展望

建設業界における人材不足および長時間労働への対応を見据え、ITツール活用による業務効率化と情報共有体制の高度化を推進する。あわせて、業務マニュアルや手順書の整備を進め、属人化の解消と教育コストの抑制を図る。さらに、工事写真管理やノウハウ蓄積へのAI活用を通じ、持続的な業務改善体制の確立を目指す。



伴走支援を通しての感想

外部専門家の具体事例提示により、対策の解像度が上がり、従業員満足度向上に向けた施策検討・試行に着手できた。制度要件に伴うスケジュール制約はあったが、課題整理と改善の優先順位付けに資する機会となった。

case 07

株式会社早川製作所

所在地 〒437-1114
袋井市西同笠921

事業内容 ガス厨房機器用部品 設計・製造

従業員数 74名



参加の背景

事務部門では販売管理・給与計算等のシステム化が進んでいた一方、生産部門では紙ベースの事務作業が残っており、生産計画や在庫情報がライン長の経験に依存していた。その結果、部門間で情報共有が十分に行われず、組立工程の計画立案にも支障が生じていた。経営判断に資するデータ基盤を整備する必要性から、本事業へ参加した。

テーマ

日報DXと在庫管理統合による、現場生産性の回復と業務基盤づくり

① 日報の電子化

- Googleフォーム等を活用し、紙の日報運用を電子化。現場で入力・蓄積できるデータ取得基盤を整備

② 在庫データの是正

- 管理基準を「作った量」へ統一し、在庫データの整合性を確保した

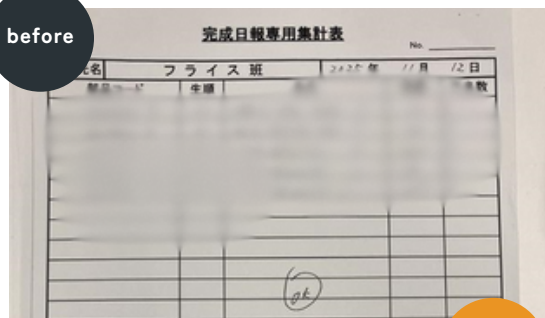
③ 集計・活用の自動化

- 既存環境とExcel、AIを活用し、集計・可視化を自動化し、運用体制を構築した

日報入力
5.7h/月
削減

日報集計在庫管理
6h/月
削減

before



after



今後の展望

今後は、現場データの整備・活用を継続し製造部門の事務作業を最小化するとともに、受注時の納期調整業務の標準化を進め、属人性の低減と業務継続性の向上を図る。

伴走支援を通しての感想

既存環境を活用した実装提案により、投資負担を抑えつつ着実に運用へ移行できた。現場主体で改善が進み、AI活用を含む自走的な仕組みづくりが組織内の横展開につながった。

お問い合わせ

《発行》

袋井市役所

(業務受託者：株式会社フォーバル)

〒437-8666

静岡県袋井市新屋1-1-1

袋井市役所 産業部 産業未来課 産業政策係

TEL : 0538-44-3136 FAX : 0538-44-3179

E-MAIL:sangyou@city.fukuroi.shizuoka.jp